

【全体概要】

富山県では、主穀作経営等の複合化品目としてストックを花き重点推進品目に位置づけており、近年では主にスプレー系品種を中心に水稲育苗ハウス等を活用した施設栽培を推奨している。市場等の実需者からは、スプレー系品種の年内需要期の契約的取引を提案されているが、9月に低温に遭遇することによる早期短茎開花や冬期の低温による開花遅延など、気象変動の影響を大きく受けることが多くなっている。また、1～3月出荷体系では、冬期の低温で凍害が発生し、採花率や切り花品質の低下などが課題となっている。

そこで、スタンダード系品種で報告されている遠赤色LED電照(EOD-FR処理)による開花促進技術を活用した年内需要期出荷と、自然低温遭遇による凍害回避技術を活用した1～3月期出荷の安定生産技術を確立する。

新品種・新技術等の概要

遠赤色LED電照による開花促進

□スプレー系ストックの遠赤色LED電照技術による年内需要期の安定出荷

○検証品種 カルテットシリーズ「ホワイト」「チェリー」「マリン」

○検証内容

遠赤色LED電照(EOD-FR処理)
による開花促進効果検証

電照条件 遠赤色LED電球11W
3m間隔、高さ1.5～2m、
日没後16時間日長処理

	8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ	発芽・展葉						発蕾						開花始め		
作業	は種 八重鑑別						電照開始						消灯		
電照1区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電照2区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無処理区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
温度	20～25℃			25℃以上			15～20℃						6～8℃		

品種名	電照	開花 始め日	平均 開花日	開花 終了日	年内 開花率 (%)	12月開花割合(%)		
						上旬	中旬	下旬
カルテット ホワイト	1区	12/13	12/25	1/4	61	4	43	14
	2区	12/16	12/26	12/31	61	25	18	18
カルテット チェリー	1区	12/18	1/3	1/14	43	4	21	18
	2区	12/19	12/21	1/3	79	18	46	14
カルテット マリン	1区	12/7	12/22	12/27	75	32	25	18
	2区	12/20	1/1	1/11	52	0	23	30

品種名	電照	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎葉数 (枚)	第一分枝数 (cm)	有効分枝数 (本)	調製重量 (g)
カルテット ホワイト	1区	82	61	44	20	4	107
	2区	84	63	41	22	4	80
カルテット チェリー	1区	79	61	43	18	4	71
	2区	81	61	40	20	5	81
カルテット マリン	1区	82	62	45	20	3	71
	2区	76	59	44	19	3	61

□凍害回避技術による冬期の安定出荷

○検証品種 同上

○検証内容

自然低温遭遇による凍害の発生状況

品種名	被覆 保温	凍害 発生率	品種名	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎葉数 (枚)	調製重量 (g)	開花 始め日	平均 開花日
カルテット ホワイト	有	85%	カルテット ホワイト	88	69	41	71	2/3	2/14
	無	60%		85	64	40	74	2/12	-
カルテット チェリー	有	67%	カルテット チェリー	78	63	44	64	2/26	-
	無	56%							
カルテット マリン	有	79%	カルテット マリン						
	無	94%							

主な取組内容

【検討会】

・実証ほの設計・現地検討会・成績検討会の開催

【技術の現地実証】

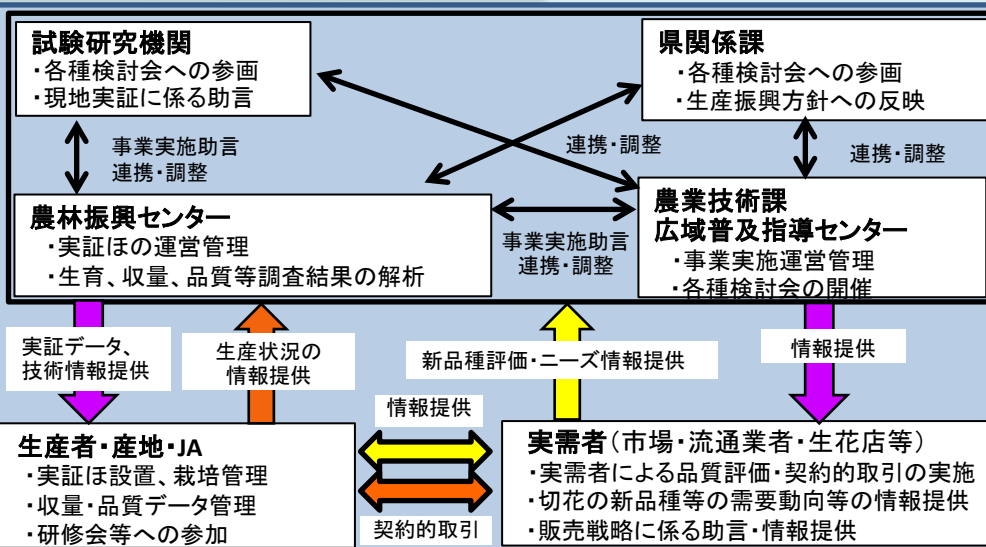
・遠赤色LED電照効果の検証(R4:4か所)

・凍害回避効果の検証(R4:1か所)

【実需者ニーズの把握・先進事例調査の実施】

・実需者ニーズ調査(品種・出荷規格・出荷形態等)3回

実施体制図



実績と今後の展開

○スプレースtock栽培マニュアルの作成(250部)

マニュアルを活用した電照栽培の普及・拡大の推進

○電照開始までの温度管理

9月下旬に25℃以下に遭遇し早期抽だいが懸念されたことから、今後はハウスの保温管理を徹底する。

○は種時期や電照期間の組み合わせによる年内出荷率の向上

電照により開花促進効果がみられたことから、生育に応じて電照期間を調整する。
「マリン」は年内採花率が低いことから、今後、は種時期の前進や電照開始時期、電照期間を考慮する。

○冬期の温度管理

自然低温遭遇後の保温開始時期を早め、電照技術により1月の開花率の向上をはかることや2℃以上での加温を徹底する。